



TITLE:

恐慌の対策と銀行業者

AUTHOR(S):

大森, 研造

CITATION:

大森, 研造. 恐慌の対策と銀行業者. 経済論叢 1920, 10(6): 831-844

ISSUE DATE:

1920-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127666>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第

卷十第

行發日一月六年九正大

論 說

財産税の利弊

法學博士

神戸 正雄

鎌倉時代の家族制度(五)

文學博士

三浦 周行

Jan de Witt に就きて(一・完)

法學博士

財部 靜治

襲自珍の農宗説

文學士

小島 祐馬

明治の米價調節(七、完)

法學士

本庄 榮治郎

人格主義の立場に於ける經濟と人生の考察(一)

法學士

石川 興二

時事問題

目下の恐慌及び失業

法學博士

戸田 海市

恐慌の對策と銀行業者

法學士

大森 研造

雜 錄

北米合衆國に於ける農耕地

法學博士

高岡 熊雄

汐見法學士に答ふ

農學博士

武藤 山治

經濟生活の道德化

法學博士

神戸 正雄

古代に於ける植民史訓

法學博士

山本 美越乃

附錄

本誌第十卷總目錄

恐慌の對策と銀行業者

大 森 研 造

(一)

凡そ物其極に達すれば必ず變ず、晴天久ふして風雨之に次ぎ昇平日永うして爭亂之に伴ふは社會の常勢なると同じく、金融緩漫の後に逼迫來り好況の裏に沈滞存するは經濟界の通性なり。左れば商工隆昌を極めて通貨の増進を促かし、物價の昂騰日に甚しきを加へて投機熱漸く熾ならんとするに至らば、恐慌の禍機暗々裡に萌して市況自ら不穩となり、次いで金融の逼迫となり、更に信用の壞頽となるは必然の勢なるを以て、苟も財界の樞軸たるべき銀行業者は、好況平穩の時に於て資金確保の原則 (Das Prinzip der Liquidität der mittel) 危險分配の原則 (D's Prinzip der Risikoverteilung) を確守し以て恐慌襲來に對する準備を整へざるべからず、蓋し一旦恐慌襲來する時は消極的營業方針 (Restriktive Geschäftspolitik) を採り貸出を回收し手形割引及引受を拒絶すること頗る困難なるのみならず、徒らに恐慌の強度を大ならしむるものなれば、其殺倒する以前に於て豫防手段 (Preventive Politik) を講じ以て財界の變化に策應すること緊要なり。

獨逸の碩儒 Riesser 教授も其著 Von 1848 Bis Heute の劈頭に於て "Schwächen und Lücken

des finanziellen Aufmarsches können sich ebenso bitter rächen wie Fehler des taktischen Aufmarsches, da auch für Jenen der Satz gelte, dass man sich nicht erst angesichts des Feindes in Gefechtsformation setzen darf." なりと喝破し、恐慌の襲來は銀行の取引上發生する幾多の現象に依りて略之を豫知することを得べく、即ち其襲來前に於ては必ず短期貸出の日歩即ち手形割引歩合の急速なる引締を見るべく、且つ其金利引締の眞因たる資金に對する需要増加を瞭に認め得るに至るべし、特に中央銀行の存在する場合に於ては、此資金需要の急増は中央銀行に對する貸出依頼の激増に依りて察知することを得べし、尙その他貸出依頼の激増すると同時に預金の引出頻繁となり、短期貸出は其跡を絶ちて悉く長期の固定投資に變態し、手形の期日に入金せらるゝもの減少して書替繼續するもの益々増加し、取引先の提供する擔保品の性質漸次粗惡となり、工業會社が營業資金を得るがためにあらず全然配當金の支拂又は増資のために貸出就中手形の引受を依頼し來り、取引先にして用途を示さず又は之を詐りて資金の融通を銀行に迫るもの増加するに至る、或は期限到來の債權に對して支拂猶豫を乞ふもの激増し、會社の設立組織變更頻繁に行はれ、株式社債の發行急増し、子女會社金融會社及び信託會社の配下に隸屬すべき補助的企業多數に設立せらるゝに至るべし、されば銀行業者は上述の諸現象を日常の取引に於て認むる時は、細心以て其眞因を探究せざるべからず、其他世界に於ける金銀產額、金銀の輸出入統計、外國爲替

相場及び金利の變動等を常に注意するの必要ありと謂へり。

(二)

夫れ怒濤將に來らんとするや海面先づ白波を見る、一波萬波其勢や抗すべからず、心ある者は一波の動くを見て萬波の必ず搖ぐを知る、若し銀行業者にして以上の諸現象を認むる時は、輒ち其襲來に先ちて機を逸せず適宜の手段を講じ、以て其慘禍を輕減することを計らざるべからず。

即ち若し一朝恐慌襲來の兆候現はるゝに至らば、中央銀行并に一般銀行業者は能く其素因を糺し、市場の趨勢を達觀して、徐ろに割引歩合を引上げ、企業者を警戒して投機熱を鎮壓すると同時に、善良なる擔保品を提供する者に對しては充分なる貸出を許して恐慌を未然に防遏せざるべからず。蓋し恐慌に處するは猶ほ飢饉に處するが如く、中央銀行并に一般銀行業者が貸出を寛大にするは恰も飢饉に際して倉廩を開くが如し、飢饉は死活の戦争の如く恐慌は身代存亡の戦争にして全く人々貨幣の得難からんを恐るゝに原因す、故に此時銀行が若し門戸を固鎖して貸出を拒絶せんか、是れ實に飢饉に瀕する人民をして米船の沈没を聞かしむるが如く、人々の洶々は激一激して全社會を破産せしむるに至るべし。Bagehot 曰く "What is wanted, and what is necessary to stop a panic, is to diffuse the impression that though money may be dear, still money is to be had ; it people could be convinced that they could have money if they wait a day or two, and that utter

ruin is not coming, most likely they would cease to run in such a mad way for money.”と、蓋し恐慌の時に際して商賈の要する所は幫助にあらずして寧ろ幫助を受け得るの保證にあり、既に幫助を受け得ること必ず可くして人心安せば實際殆ど幫助を要せざるなり、かの一九一四年八月倫敦に於ける恐慌最高潮に達したる時の如き、英國政府は屢々銀行條例の停止 (Suspension of the Bank Act) を宣明し、定限外發行 (excess issue) を英蘭銀行に許したりと雖も、唯銀行條例停止せられ無限の紙幣流出すべしとの風説のみにて、さしも激烈なりし恐慌も沈靜し實際上法律違反の定限外發行を爲すに至らずして已みたるは、一九一四年通貨及銀行券法 (Currency and Bank Notes Act, 1914) の示す所なり。

然而世上投機非常に熾盛にして屢々割引歩合を引上ぐるも其效を奏せず、遂に恐慌襲來に遭遇せば、須らく中央銀行は一般有力銀行と力を戮せて其豊裕なる資本と巨大なる信用とを巧みに利用し、苟も信用確實にして安全なる手形の所有者には進んで融通を與へて之を救助し、投機者流の請求に係はるものは斷然之を拒絶して自然淘汰に放任すべし、果して然らば正業者は幸にして倒産の渦中に陥るを免れ、空商輩は其窮策を施すに道なくして自ら顛れ、茲に人心漸く治まりて事平穩に復し、信用亦挽回して經濟界は其面目を一新することを得べし。

之を要するに銀行業者は、所謂收縮政策 (Restrictive policy) と膨脹政策 (Expansive policy)

とを適宜に併用して、一方金利の引上げによりて通貨信用の收縮を計り、他方之によりて正業者に充分の融通を與へることによりて甫めて恐慌を事前に防止し事後に救済することを得べきなり。

(三)

最近起れる株式市場の混亂、生絲棉絲布期米の崩落、二三小銀行の破綻又は取付騒を以て、當然來るべき恐慌の前兆なるが如く看做し、經濟界の前途を極端に悲觀するの早計なるは言を俟たざる所なるも、然し之を以て偶發的にして而かも短期間に回復すべき一時的不景氣と看做して無下に財界の前途を樂觀するが如きも短見淺慮の甚しきものと云はざるべからず。

今や財界救済の聲は朝野に囂しく政府當局、日銀、一般銀行業者、事業家共に救済策を講じつつあるも其動搖の由て起りし所を闡明せずして拙劣なる救済策を施さんか、却つて動搖の程度を大ならしめ、或は大恐慌の襲來を醸成することなきを保し難し。

抑も今次動搖の直接原因は、貿易の逆調、正貨の漸減、企業生産資金の需要激増に基く金融の梗塞と、是等を根柢とする財界前途の悲觀に歸すべきも、之を誘致したる根本原因は不自然なる物價騰貴と極端なる投機熱とに在り、物價騰貴と投機熱とは互に相關聯せるものにして、歐亂の如き世界的大動搖に際しては或る程度まで免がる能はざる所なるも、政府當局日銀一般銀行業者事業家等が之を助長し激成せざりしならんには、其程度は今日の如く激烈ならざりしなるべし。

即ち若し(一)當局が物價調節を忽にし其騰貴を激成するが如き態度を探り(二)日銀が金利を低くして際限なく兌換券を膨脹して貸出を放漫ならしめ(三)一般銀行業者が手許資金を空虚にし極度に信用を膨脹して貸出の増加を圖り(四)責任を重すべき事業家が投機熱に浮されて不堅實なる事業を濫興し(五)商賈は思惑買占をなして投機業者に氣勢を添へ、相率ひて物價騰貴を激成し投機熱を煽揚するが如き不謹慎の態度を慎み、積極的に之を抑制せざるまでも其事の極端に馳せざる以前に幾分警戒的態度を示したらんには、今日の如き急激なる波瀾動搖は之を未然に防止し得たりしや疑ふべからず、斯く論じ來らば今回財界動搖の責任たる、半は之を過去數年間に亘りて我財界を不自然の狀態に置きたる所謂戰爭景氣に對する必然的歸結に委し得べきも、半は之を銀行業者慢心の罪に歸せざるべからず。

(四)

財界動搖の責任者夫れ斯くの如し、然らばその當面の責任者たる日本銀行が此際第一に斷行すべきは公定利率 (Bank rate, Official Rate) の引上に在り、日銀が昨年十月、十一月の二回に亘りて四厘方利上を行ひしことは、假令市場利率 (Market rate, Private rate) に對する鞘寄せに過ぎざりしと雖も、投機資金の需要を幾分抑制し、通貨膨脹を緩和せし消極的效果は之を認むることを得たり、然れども財界の最大禍根たる物價騰貴、投機思惑の流行を抑制する積極的效果の存せ

ざるのみならず、寧ろ日銀の公定利率と市場利率との間に驚く可き開きを生じ、事實上に於て投機空商を煽揚するが如き結果を齎せり、蓋し日銀は其公定利率をして常に市場利率に接近せしめ、兩者の間に甚しき開きを生せしめざる様努力すべきに拘らず、常に市中銀行に追従するの態度を採れり、是れ同行が一國金融中樞機關たり財界首腦者たる機能を全ふする能はざる所以にして、今之が現状を見るに、市場利率は昨年同期に比して日歩約壹錢の大差あるに拘らず、公定利率の差は僅に四厘に過ぎず、隨て兩者の間に日歩七八厘の開きを生ぜり、斯くの如きは到底他の文明諸國に於て見ることを能はざる奇現象なりとす。

抑も財界の好況期に於て最も戒むべきは信用の膨脹なり、之を矯正すべき途種々存すと雖も、中央銀行としては金利引上貸出制限に依るを常道となす、然るに日銀は此道軌を踏まず、在外正貨準備繰入の變態制度公認せられ制限外發行に對する稅率の低きを奇貨となし、過去數年間殆んど無制限に兌換券を増發して低利の融資を圖り、以て通貨信用の膨脹を招來せり。

若し日銀が今日あるを豫期して昨年十一月再度の利上に次いで、適當の時期に更に第三次第四次の利上を續行し少くとも其公定利率をして絶えず市場利率に接近せしむることを怠らざりしならば、財界は疾く警戒氣分を加へ今日の動搖を見るに至らざりしならん、然るに日銀は當然行ふべき利上を怠り低利を以て巨額の資金を貸出したるがため、通貨信用は際限なく膨脹し物價は益

益騰貴し投機熱は極度に昂騰して、遂に今日の結果を見るに至れり、現に動搖勃發當時の日銀營業週報を見るに、手形割引高三億四千九百萬圓にして、前年同期に比して約六倍の多きを示せるが如き日銀貸出の如何に放漫なるかを證明して餘あり。日銀總裁が「日本銀行は好景氣時代に於ては投機思想を戒め緊縮の態度を勸説し之に對して相當の處置を取りたり」と云ふも、事實は全く正反對にして、却て投機思想を煽揚せしが如き結果を見るに至りしは甚だ遺憾とする所なり。

(五)

次に財界の反動期に際し故意に金融の途を梗塞して生産貿易の基礎を破壊するが如き不條理なる態度は飽迄も慎まざるべからず、即ち「平素眞面目なる事業に従事し而して此反動期に處すべき應分の整理を行ふ者に對して出來得る限り金融上の援助を與へん」とする日銀總裁の趣旨に對しては異議なきも、一方に於て自立の見込ある者に對して出來得る限りの融通を與へ之を援助するの途を講ずると共に、他方に於て益警戒を嚴重にし極力投機思想を抑制して、財界より不健全なる分子を一掃するに非ざれば、到底満足なる整理を望むこと能はず、而して此警戒的態度を具體的に現はす最も有力なる方法は金利の引上に在り、金利の引上をなさずして整理の必要を説き警戒を云議するも畢竟無意味なり。

由來日銀が兌換制度の運命を其成行に放任しつゝ、日を事業界の利益に籍りて金利の引上に隣

踏し言を産業貿易の獎勵に託して兌換券の増發を辯明するが如き、眞に經濟界の利益を慮る誠意に出でしと雖も、是れ所謂未襄の仁のみ、吾人の與みせざる所なり。Conant曰く、割引歩合引上の影響を見るに、貸出の請求を減少し株式投機を限縮せしめ、外國債務決済の要求を減じ貴金屬の流出を防ぎ、却て資本を國內に保留せしめて貴金屬の輸入を誘ひ、隨て物價を下落せしめ輸出を獎勵し市場を沈滞せしむる (An increase in the rate of discount appears upon its face to mean an increased profit to the banker. This, however, is the least important of its economic effects. The tendency of changes in the rate is to restrict applications to banks for commercial loans, to diminish speculation on the stock exchanges, to reduce the demand for settlement of foreign obligations, and thereby to diminish export of the precious metals, retain capital within the country which would otherwise be with drawn, and attract direct importations of the precious metals. All these effects tend strongly to keep the credit system in harmonious relations with the supply of legal-tender money and to diminish the credit extended by banks. (Conant, Principles of money and Banking, p.p. 221-5)

Gide 曰く「割引歩合を引上げ若くは割引の爲めに提供せらるゝ手形の選擇を嚴にし、期限の餘り長きもの、又は署名の信用薄弱なるものを拒絶することによりて、期待の結果を齎すことを得

「To do so, it is enough for it either to raise the rate of discount, or to be more exacting as to the paper it will discount, refusing paper of long maturity or paper the signature of which does not seem reliable enough.」(Gide, Political Economy, p. 448) 但し割引歩合の引上は L. L. Price の指摘する如く、一般物價及株式の下落を招き、通貨の需要を減縮せしめ、事業の擴張を阻止し、又勞銀の支拂、小賣商品の買付に必要な小口現金の需要をも減縮せしむることあれども利益の存する所弊賣の伴ふは數の免れざる所なれば、割引歩合の引上即ち高利の貸付が不當なる臆病 (Unreasonable timidity) に對する罰金として實際資金を要せざる者の貸出を防止し、その投機空商を撲滅する點に於て Gide の所謂毒を以て毒を制し、病を以て病を療するの策 (The evil is cured by a like evil—the precept of the homoeopathic school in medicine, similia similibus) に非ざるか。

次に利上の程度に就ては人各々其意見を異にするも、少なくとも市場利率と殆んど同一程度迄引上ぐるを可とすべし。蓋し公定利率と市場利率との間に開きを存し、所謂鞘取の餘地を存する時は再び信用の擴大投機の隆昌を招致して、獨り財界の整理を困難ならしむるのみならず、反動期の波瀾をして一層大ならしむるの虞あり、曩に伊太利中央銀行及び佛蘭西銀行の公定利率引上あり、英蘭銀行が四月十二日以降その割引歩合を六分より七分に引き上げ、最近米國各地の準備銀

行が五パーセント四分一乃至六パーセントに利上を行ひ、内外に向ひて大警報を掲げたるその英斷は日銀當局の宜しく學ぶべき所なりとす。

(六)

次にその責任者たる一般銀行業者に就きて見るに、從來我國銀行業者の多くは、平素自己の責任準備を怠たり、事ある毎に日銀に哀訴して其融通を依頼せんとする所謂他力本願的營業方針を採れり、從て今回の如き市場の大動搖に遭遇するや、假令多少の遊金を擁する銀行と雖も、自ら進んで確乎たる對策を講ずるの勇氣なく、延て實際以上に金融の梗塞を來し、市場の混亂動搖を助長するの傾あり。

今之を忌憚なく評すれば、一般銀行は過去數年間殆んど自衛の途を怠たりしものと云ふべし、蓋し銀行自衛の途とは貸出制限、預金吸收、資力充實に外ならず、而して之を行ふには不斷の警戒と嚴肅なる態度とを以て財界に臨み、苟くも投機思想を助長するが如き不謹慎なる舉措は斷して慎まざるべからず。然るに一般銀行の態度は、特に警戒を要する財界の好況期に於て之を怠り、制限すべき貸出を制限せず、手許資金を空ふして信用の擴大を圖り、直接間接に投機熱を煽揚せり。註一)

年 月 預 金 貸 出 金
大正元年 三月末 五、七、七、五〇 五、七、七、五〇

大正二年 三月末	八三、四〇、七二〇	八三、一八、一〇一
大正三年 三月末	八六、五二、九八	八六、五二、九八
大正四年 三月末	一〇一、三二〇、三三	一〇一、三二〇、三三
大正五年 三月末	一〇四、九四、九〇九	一〇四、九四、九〇九
大正六年 三月末	一〇七、七二、七二〇	一〇七、七二、七二〇
大正七年 三月末	一一七、七二、七二〇	一一七、七二、七二〇
大正八年 三月末	一二七、七二、七二〇	一二七、七二、七二〇
大正八年 四月末	一二七、七二、七二〇	一二七、七二、七二〇
大正八年 五月末	一二七、七二、七二〇	一二七、七二、七二〇
大正八年 六月末	一二七、七二、七二〇	一二七、七二、七二〇
大正八年 七月末	一二七、七二、七二〇	一二七、七二、七二〇
大正八年 八月末	一二七、七二、七二〇	一二七、七二、七二〇
大正八年 九月末	一二七、七二、七二〇	一二七、七二、七二〇
大正八年 十月末	一二七、七二、七二〇	一二七、七二、七二〇
大正八年 十一月末	一二七、七二、七二〇	一二七、七二、七二〇
大正八年 十二月末	一二七、七二、七二〇	一二七、七二、七二〇
大正九年 一月末	一二七、七二、七二〇	一二七、七二、七二〇
大正九年 二月末	一二七、七二、七二〇	一二七、七二、七二〇
大正九年 三月末	一二七、七二、七二〇	一二七、七二、七二〇

是れ固より政府の膨脹政策及日銀の際限なき兌換券増發、放漫なる低利融資が一般銀行業者をして今日の信用擴大を致さしめたる重大原因をなせるは一般に認むる所なるも、一般銀行業者が其信用を過度に擴大して、資力の薄弱を致し、財界反動を救治する能力に缺ぐる所あるは疑ふべ

からず。即ち財界の反動期に處して其反動的波瀾を緩和し、出來得べくんば眞實の意味に於ける恐慌の襲來を防止するの任に當るべき銀行が斯かる狀態に在りとすれば、吾人は甚だ寒心に堪へざるなり。

(七)

然らば其對策如何、曰く、一般銀行業者は資金回收、預金吸收、貸出制限を行ふて支拂能力の増大を圖るべし。支拂能力の増大は獨り自衛の手段として必要なるのみならず、預金者に安心を與へ、且つ自立の能力を有する多數の事業家に必要なる資金を供給し、是等をして無事に難關を通過せしむるためにも極めて重要なるや論を俟たず。而して資金回收貸出制限を行ふべき相手方は即ち投機空商輩にして、一言以て盡せば彼等に對する融通を極力差控へ、此方面より消極的に實力の充實を圖るを以て自衛の眼目とすべきなり。勿論此方面に對し極力資金の融通を差控ふるときは投機空商間に倒産者の續出を見るべく、倒産者續出すれば人氣は更に惡化し、所謂財界の不景氣は一層甚しきを加ふることなきを保し難きも、是れ財界整理のため已むを得ざるの犠牲にして、今日に於て全部を救済することは事實不可能なるのみならず、不必要且つ不得策なり。財界より不健全分子を一掃するは其整理を早からしむる所以にして、其目的を達するには右の如き英斷を行ふを以て捷徑となす。蓋し財界の反動に於て銀行業者の最も注意すべきことは、玉石俱

に碎き蕪蕪共に焚くが如き拙策に陥ることなく、嚴正周到なる甄別力を以て玉石を淘汰し、救ふべきを救ひ救ふべからざるを捨つるにあり、救ふべからざるを救ひて其資力を薄弱ならしむるときは、共倒の不幸を見るの虞あるのみならず、當然救ふべき者をも救ふ能はざるの結果を生じ、爲めに反動的波瀾を一層大ならしむるを以てなり。

水に溺れんとする者を助けんとして自ら溺るゝを厭はざるか如き犧牲的精神は個人の場合に於ては表彰に値するも、銀行は銀行業者の銀行に非らずして株主の銀行なり、預金者の銀行なり、社會の銀行なり、人を救はんとして自ら溺るゝは多數者を溺れしむるの愚擧なるを思へ、吾人は所謂玉石共碎蕪蕪共焚の非を訴ふると同時に、舐憤の愛に溺るゝの愚を戒めんと欲す。今後財界の消長を決するものは日銀并に一般銀行業者の施設方針如何に在り。此二者にして現狀を改めざる限り我財界の運命は不幸にして其危機を脱すること能はざるべし。されば銀行業者たるもの徒らに眼前の瑣珠に馳せて姑息偷安の陋策に陥ることなく、宜しく斯業本來の性質に鑑み社會連帶の大法則を自覺し、協心戮力以て變に處して道を誤るなからんことを切望して歇まざるなり。